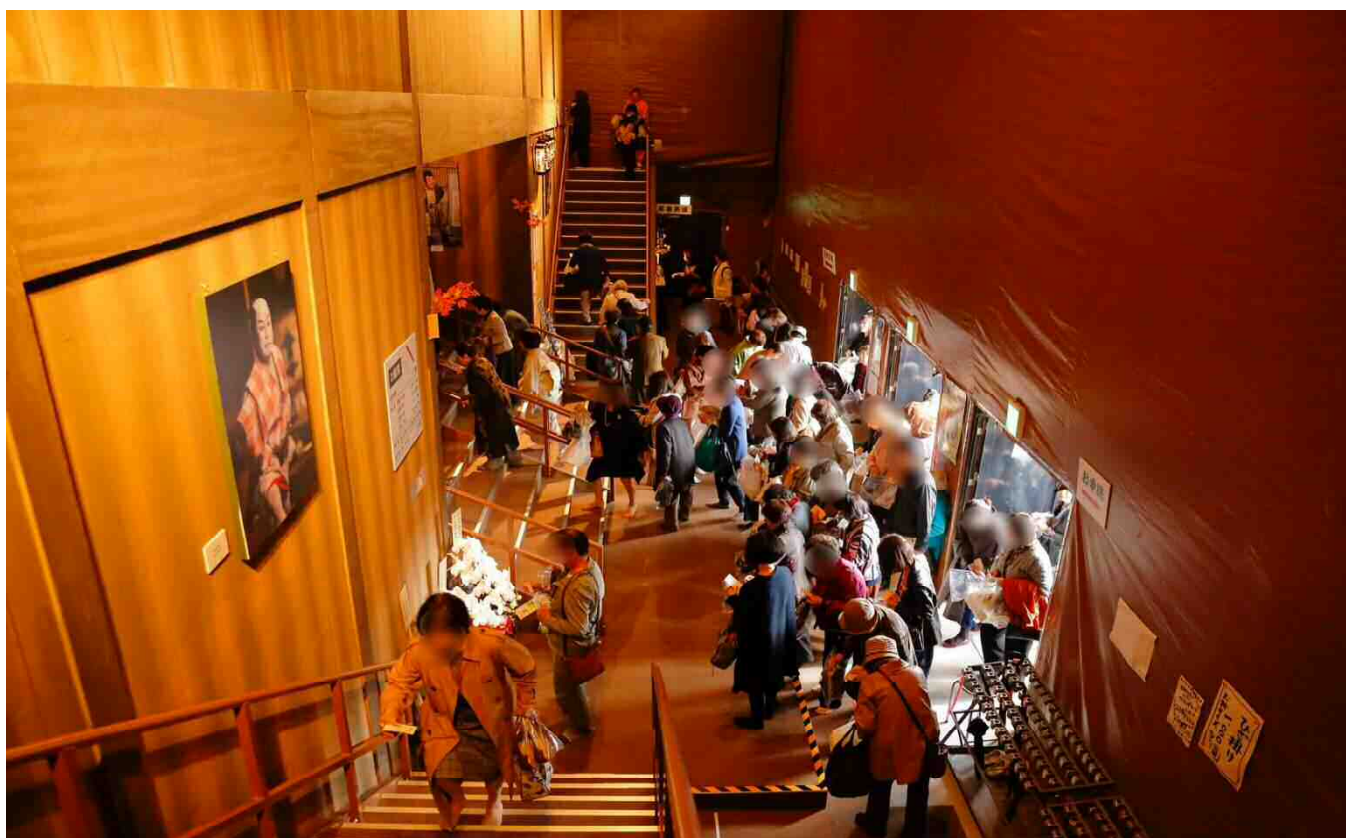


## お馴染み“平成中村座”ならではの遊び心満載の仕掛け！



小屋に入ると目に飛び込んでくる「平成中村座」と書かれた大提灯と黒、白、柿という江戸時代から引き継がれてきた中村座の伝統色が用いられている定式幕。小屋に入った瞬間から江戸時代に“タイムトリップ”したような空間が広がります。小屋に入る時には、江戸時代と同じように靴を脱いでもらいリラックスして開放的な気分で芝居が見物できます。





小屋には、様々な装飾が施されています。懐かしい十八世中村勘三郎の写真やお茶子さんと呼ばれる案内人が手作りをつくった装飾品など小屋の隅々にいたるところまで温かみに溢れています。



まるで遊園地のように遊び心に溢れているのが、こちら上の写真の“隠れ勘三郎”です。小屋のあちらこちらに、十八世にちなんだ十八個の勘三郎の目が隠れています。壁に描かれた目もあれば、スタッフ関係者でも全部探すのが困難な程、まさか?と思う意外なところに隠れている目もあります。上演前、幕間、終演後も愉しめます。



客席に座っていただくと想像以上に舞台と客席が近く驚くこと間違いありません。花道もすぐそこにあり、役者の息遣いを感じられるほどです。席種も他劇場にはない松・竹・梅・桜・お大尽と呼ばれるバリエーションを用意しております。たとえば客席前方で座椅子に座って観劇する松席は、すぐそばを俳優が通るので臨場感たっぷりにお芝居を楽しめます。そして、右の写真のお大尽席は、専任のお茶子さんがつきっきりでお出迎えからお見送りまでお世話させていただき、お弁当、お茶、お菓子がついて、まさにお大尽気分で贅沢な時間を愉しんでいただけるお席となっております。エンタテインメント空間「平成中村座」をご堪能下さい。